

輝け アスリート 第3回

小林史和選手と NTN

昨夏、最も古い日本記録（男子 1500m）が NTN の小林史和選手によって 27 年ぶりに更新されました。日本の中距離の第一人者として、頂点に君臨し、「日本記録更新は時間の問題」と思われていましたが、ついにベルギーの IAAF グランプリで現実のものとなりました。越井監督（NTN）にお話を伺いました。

レースは 400m を 56 秒で通過。800m は 1 分 55 秒（59 秒）、1200m を 2 分 53 秒（58 秒）で通過する明らかな日本記録突破ペース。「いける」と確信して、一時は先頭に立ち、混戦のスプリント合戦の中、5 位でゴール。タイムは「3 分 37 秒 42」。27 年ぶりの日本記録更新の瞬間でした。

昨シーズンの NTN は、小林選手を含め、「厳しさ・個性の尊重・信頼関係」をキーワードに「勝負は今、やるのは自分」をモットーに、結果を気にしすぎた消極的なレースではなく、失敗を恐れない積極的なレースを心掛け、万一失敗してもそこから課題を明確にして次へ取り組むプロセスを大切にしながら「練習と競技会の流れ」を組み立ててきました。

小林選手は、アテネ五輪出場を目標に 1500m に取り組みました。勝負に徹した日本選手権を除き、出場した 9 レースはすべて日本記録突破ペースでの挑戦でした。アテネ出場の夢は破れましたが、ベルギーへは日本記録を更新するために乗り込みました。この記録は出すべくして出た記録だと思います。

埼玉国体成年男子 3000m 障害優勝の春田選手も、1 ヶ月前の全日本実業団陸上ではラスト 3 周から勝負に出たが逃げ切れずに敗退。現状の課題克服のために、最終調整は標高 2000m の高地に出かけ、「仕上げ」の練習を実施しました。その甲斐があって、国体では「苦しいところで前に出て、力でねじ伏せる」春田選手の持ち味を生かした圧勝となりました。

青森山田高校から昨春入社したムワンギ選手にしても同様のことが言えます。春先にトラックレース（織田記念・ゴールデンゲームス・日本選手権など）では先に勝負を仕掛けて破れていました。しかし、7 月の札幌国際ハーフマラソンでは国内に所属する有力外国人選手を相手に高卒 1 年目とは思えない試合巧者ぶりを発揮し、1 時間 01 分 48 秒（シーズン世界ランク 17 位）で初優勝するほどに成長をしてくれました。

これからも一人一人を大切にしながら、更なる向上を図りたいと考えています。

歴史と伝統のある「NTN 陸上競技部」が、駅伝のみならず、選手一人一人の個性を大切にして、トラック種目にも力を入れてくれていることは、三重県ばかりでなく、日本の陸上競技発展に大きく寄与していると思います。これからのますますの活躍を期待しています。